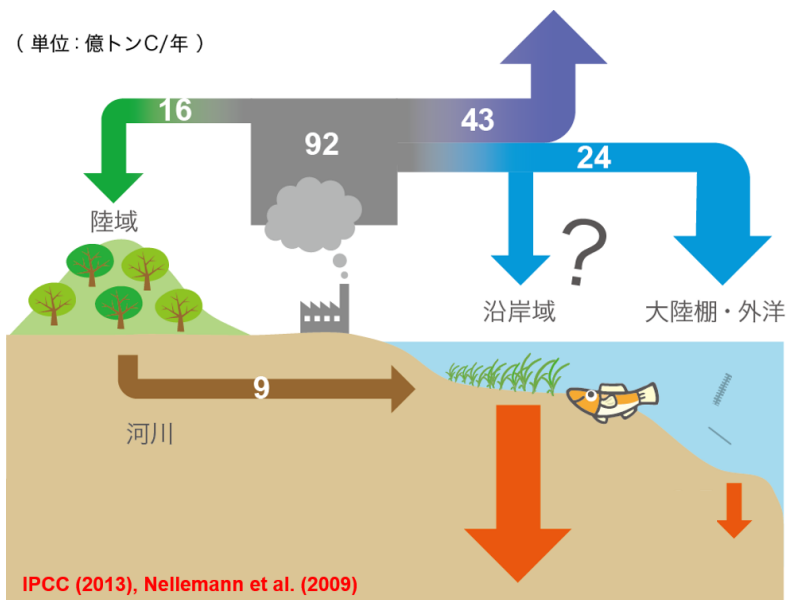


- 陸上で森林などが吸収・固定する炭素を「グリーンカーボン」と呼ぶのに対して、海洋において海草などが吸収・固定する炭素は、2009年10月に国連環境計画（UNEP）の報告書において、「ブルーカーボン」と命名された。（当該報告書は、タイトルも「BLUE CARBON」とされており、海洋における炭素固定効果の重要性を指摘している。）
- 四方を海に囲まれた日本にとって、沿岸域における炭素固定効果は大きく、その評価方法や技術開発の確立が重要。



・日本の領海・排他的経済水域の面積：  
約447万km<sup>2</sup>(世界第6位)

・日本の海岸線延長：  
約3.5万km(世界第6位)